

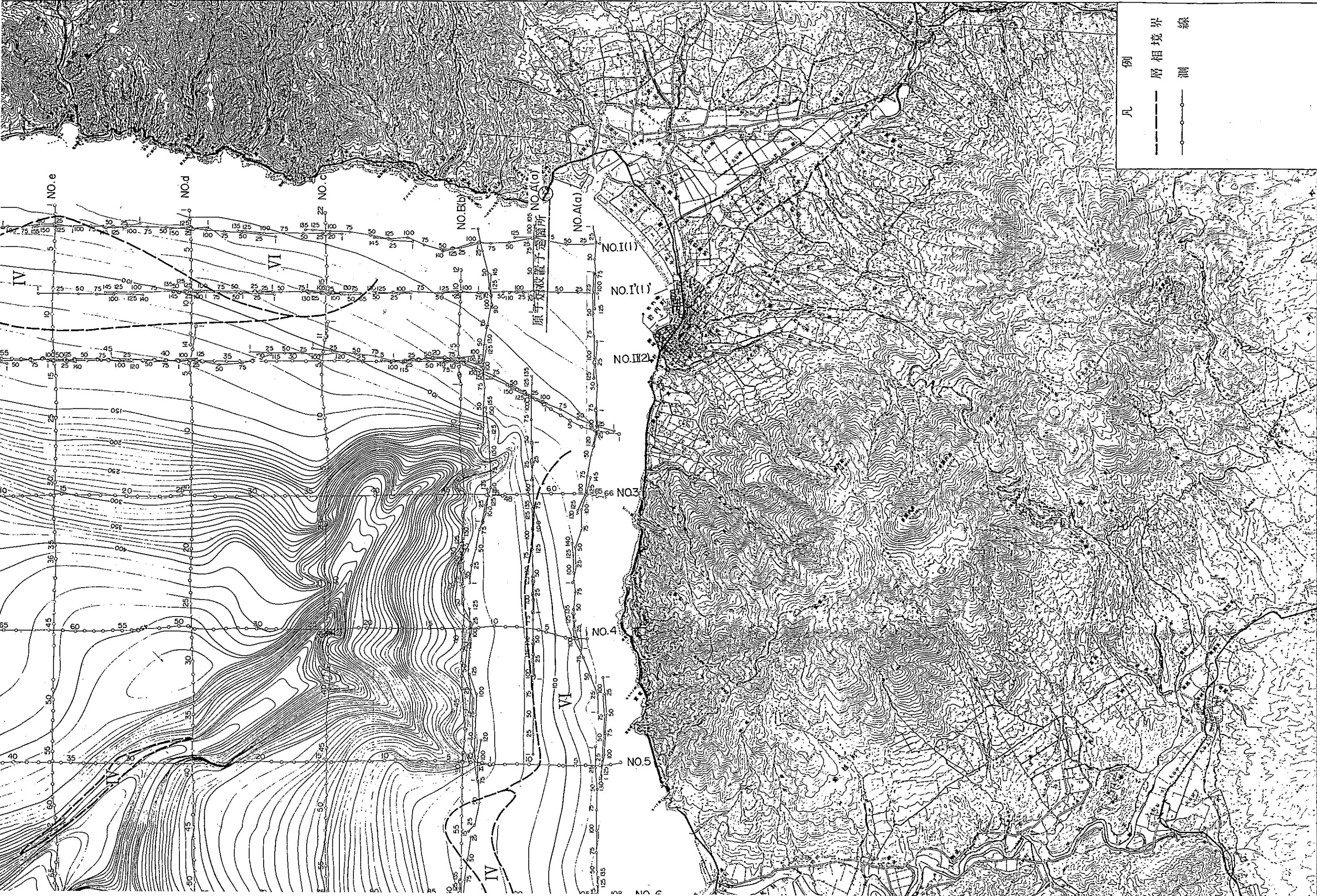
第 1.4 図 調査位置図



例

層相境界 ————

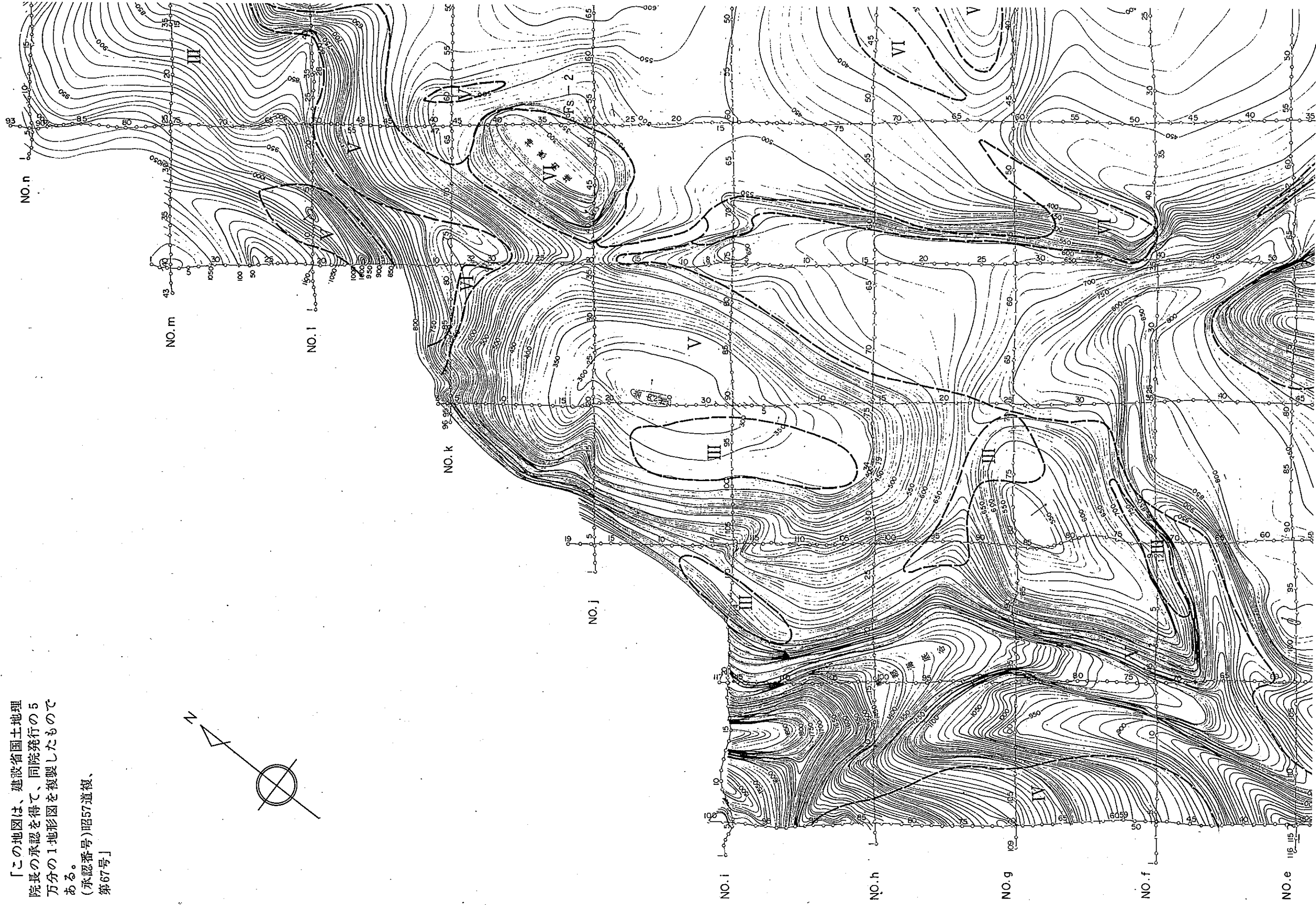
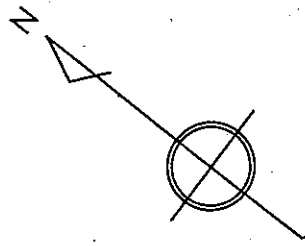
測線 ○—○—

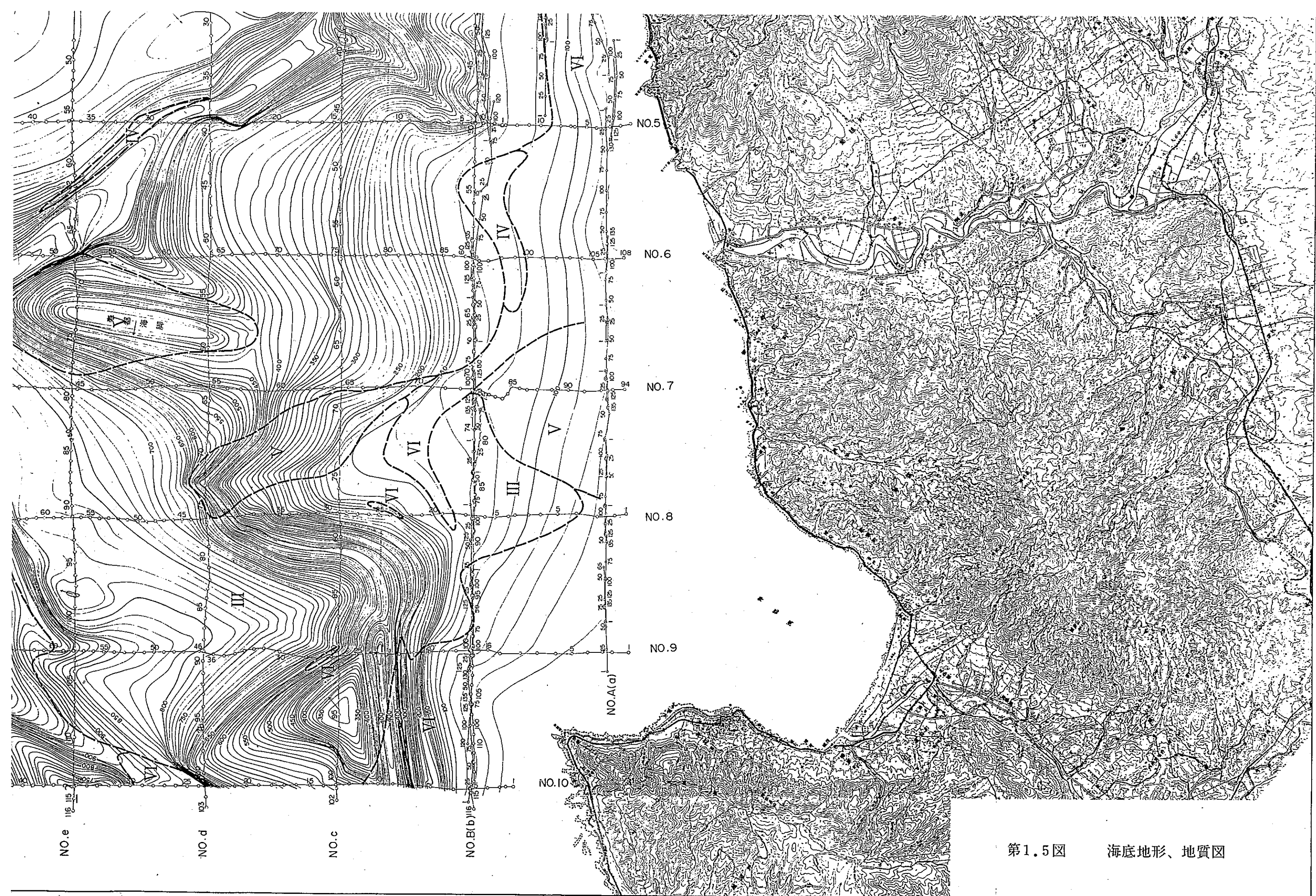


原子彈設置予定箇所 NO. A(a)

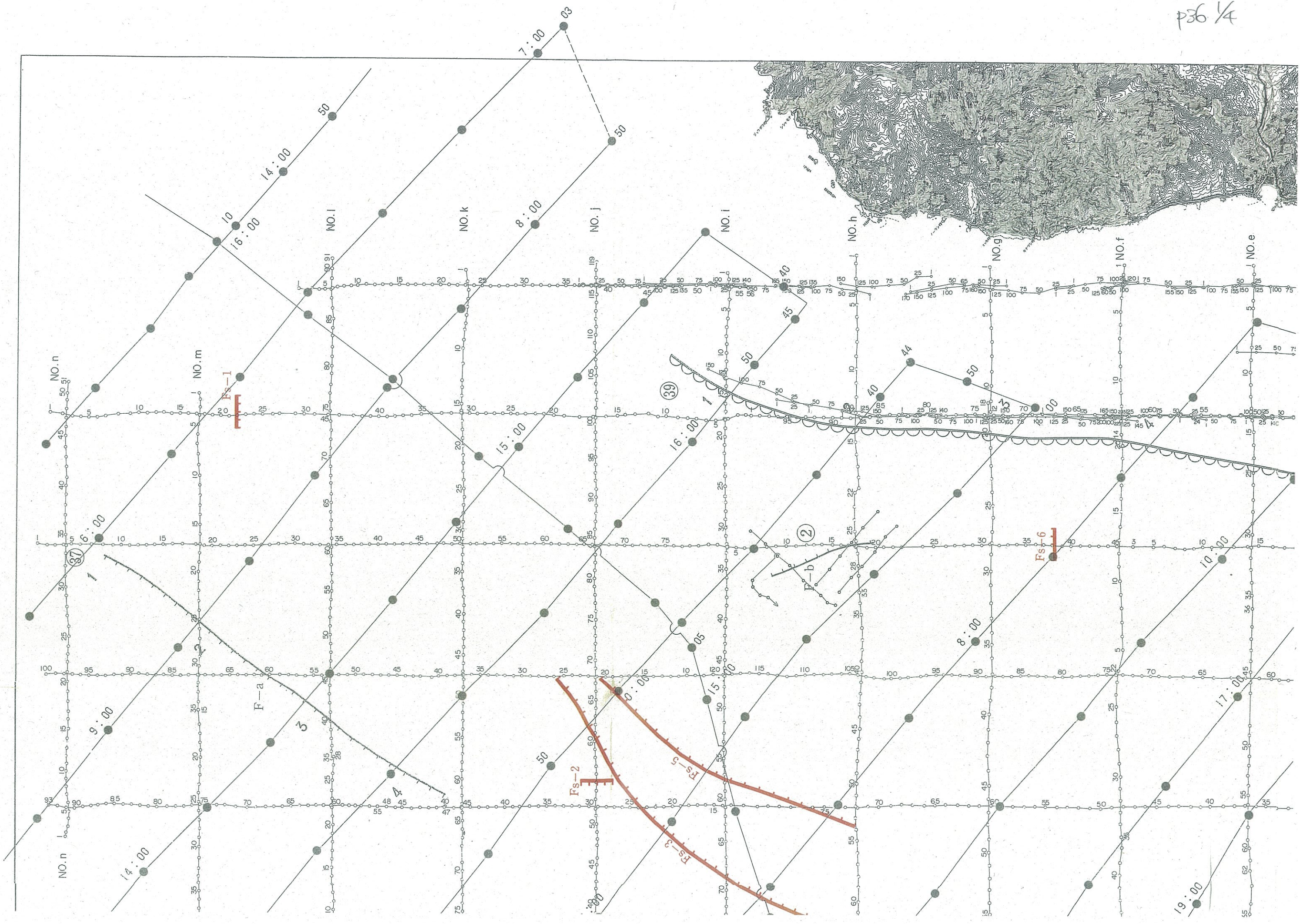


「この地図は、建設省国土地理  
院長の承認を得て、同院発行の5  
万分の1地形図を複製したもので  
ある。  
(承認番号)昭57道複、  
第67号」





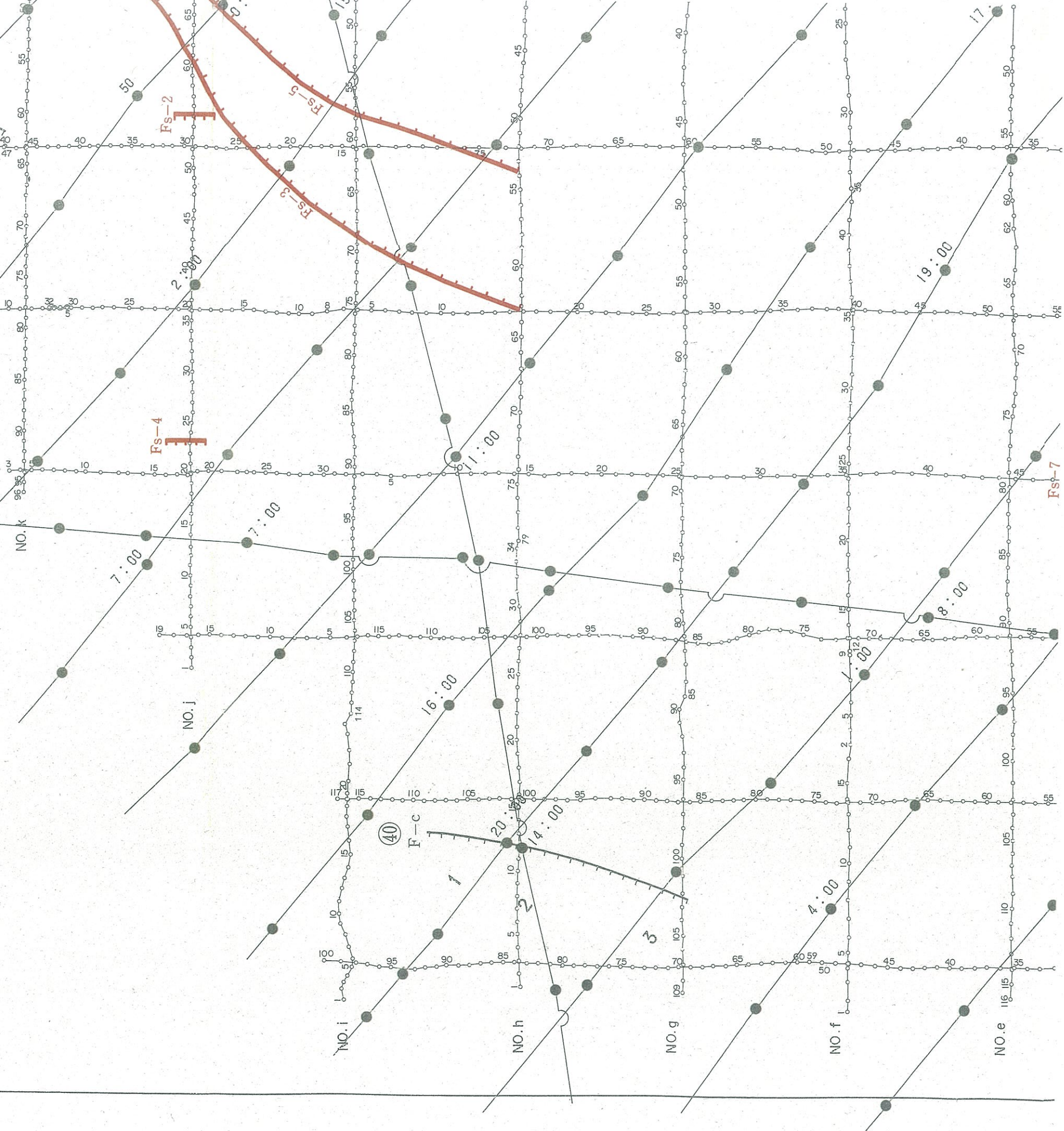
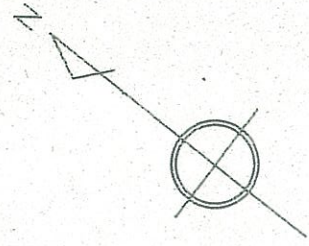
第1.5図 海底地形、地質図





「この地図は、建設省国土地理  
院長の承認を得て、同院発行の5  
万分の1地形図を複製したもので  
ある。  
(承認番号)昭57道複、  
第67号」

第1.6図 敷地前面海域の断層位置図





第 1.6 図 敷地前面海域の断層位置図

## 敷地周辺海域

第2.1表 音波探査の方法

第2.2表 敷地周辺海域の海底地質分類

第2.3表 敷地周辺海域の断層の状況

第2.4表 調査結果による断層と文献断層の長さの対比

第2.5表 敷地周辺海域の断層の活動性検討結果

第2.1図 海底地質構造図

第2.2図 広域海底地質図

第2.3図 日本と周辺海底の活断層図

第2.4図 主要文献断層付近調査位置図

第2.5図 敷地周辺海域の断層位置図

第2.6図 断層周辺の海底地形図

第 2.1 表 音波探査の方法

	A 海 域	B 海 域
測 線 間 隔	約 5 km	
振 源	水中放電式 (スパーカ)	圧縮空気式 (ウォーターガン)
最 大 水 深	約 1000 m	約 3500 m
発 振 間 隔	3 秒	18 秒
発振エネルギー	4500ジュール	25000ジュール
船 速	約 5 ノット	
船 位 表 示	20 分	
記録の縦横比	約 8	約 18

第 2.2 表(1) 敷地周辺海域の海底地質分類 (A 海域)

地質時代		属相区分	パターンの特徴 (スーパーカ)	推定され る地質	分 布	参 考	
						B 海 域	前面海域 (1981)
第 四 紀	完新世	I	海底地形の凹地を埋めて堆積。 音響透過が良く、サブボトムプロファイラーで白っぽいパターン。	未 固 結 堆 積 物	ほぼ全海域 に分布	I	I
	更新世	II	密に成層。 海底地形に平行または水平な層理。サブボトムプロファイラーでは層理がみられる。			II	II
新 第 三 紀	鮮新世	III	IIに比べやや粗く成層。 ゆるい褶曲や、うねりが発達。層理中にチラチラしたパターンが卓越し、層理面が不明瞭となることあり。サブボトムプロファイラーでは層理がみられない。 海盆中心部で整合的、縁辺部で不整合にIIに被われる。	未固結～半 固結堆積岩、 火山砕屑物	一部の地形的な高まりを除く全海域に分布	III	III
		III'	変形の程度、記録のパターンはIIIとほぼ同じ。 明瞭な不整合でIIIに被われることが多い。 IIIの下位に顕著な反射面がみられる。	半 固 結 堆 積 岩	地形的な高まりから海盆にかけて分布		
	中新世	IV	層理が発達。 顕著な褶曲構造が発達。	堆 積 岩	北部の地形的な高まりに広範囲に分布	IV	IV
		V	層理が発達せず、白くチラチラしたパターン。 最上部では回折波が生じていることが多い。	堆 積 岩 火 成 岩 (音響基盤)	地形的な高まりの最下部	V	V VI

第 2.2 表(2) 敷地周辺海域の海底地質分類 ( B 海域 )

地質時代		層相区分	パターンの特徴 (ウォーターガン)	推定される地質	分 布	参 考	
						A 海 域	前面海域 (1981)
第 四 紀	完 新 世 、 更 新 世	I 、 II	主に縞目模様が水平に成層したパターン。 また、細かく乱れたパターンやモヤモヤした不透明なパターンも部分的に見られる。	未 固 結 堆 積 物	主として海盆底や地形的凹地に分布	I 、 II	I 、 II
	鮮 新 世	III	傾斜し、褶曲した縞目模様のパターン。大陸斜面や海嶺ではチラチラしたパターンとなってIV層と区別がつけにくくなる海盆底で層厚を増す。	未固結～ 半固結 堆 積 岩	ほぼ全域に分布	III 、 III'	III
第 三 紀	中 新 世	IV	成層した縞目模様も見られるが、主としてチラチラした不透明なパターン。	堆 積 岩 火 山 碎 屑 岩	ほぼ全域に分布し、地形的高まりを構成	IV	IV
		V	最低下位層で表面はチラチラするが、すぐに白く抜けるパターン。 (音響基盤)	堆 積 岩 火 成 岩	海嶺、大陸斜面の下部	V	V 、 VI

申請者の 音波探査 測線名	文献断層の記録判読結果						申請者の断層 認定箇所	申請者が実施した音波探査記録の判読結果							
	活断層研究会		海上保安庁		地質調査所			断層名	断層が認められる層	変形が認められる層	影響を受けていない層	最近の活動性 有無	断層付近の特徴	評価	
	※1 有無	※3 記録番号	記録判読結果	※1 有無	※3 記録番号	記録判読結果									※1 有無
A-②							○	F <sub>4</sub> -1	III、IV	-	-	×	水深130mの堆頂部 I~III層欠如、海底地形平坦	波蝕されて以来の活動性はないと判断される。	
A-④							○	F <sub>4</sub> -1	IV	-	II	×	I層欠如、II層は地形なり	II層の状況から最近の活動性はないと判断される。	
A-③							○	F <sub>4</sub> -1	III、IV	-	II	×	I層欠如、II層に変形なし	II層の状況から最近の活動性はないと判断される。	
A-④				○	⑭-1 ⑭-2	層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。	○	⑮-1	層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。			○	水深の異なる波蝕面が2段認められる。 I層欠如、II層に変形あり。	II層の状況から最近の活動性があると判断される。	
A-⑤	○			○	⑭-3	記録が明瞭でなく判読が困難である。	○					○	I層欠如、II層に変形、層厚変化あり。		
A-⑥	○			○	⑭-4	層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。	○	⑮-2	下位層は切断されていると判断され、断層の可能性はある。上位層はアバットしている可能性がある。			○	水深の異なる波蝕面が2段認められる。 I層欠如、II層に変形あり。		
A-⑦	○			○	⑭-5	下位層の層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。上位層はアバットしている可能性がある。	○					○	III、III'、IV		
A-⑧	○			○	⑭-6	下位層が連続していると判断され、断層でない可能性が大きい。	○					○	III、IV、V		
A-⑨	○	⑭-9	下位層は切断されていると判断され、断層の可能性はある。上位層はアバットしている可能性がある。	○	⑭-7 ⑭-8	下位層が連続していると判断され、断層でない可能性が大きい。	○					○	III、IV、V	沈降側に埋没谷あり。 I層欠如、II層に変形なし。	II層の状況から最近の活動性はないと判断される。
A-⑩	○						○	F <sub>4</sub> -1'	II下部	I、II上部	-	○	海底地形にわずかの傾斜が認められる。 II層の下部切断。	F <sub>4</sub> -1断層が認められる場所と同じ地形の変換点ではV層にII層がアバットし、V層は連続していることから断層ではないと判断される。 この断層は地形変換点の東側に認められるもので、V層に段差とII層に層理面の不連続が認められ、最近の活動性があると判断される。	
A-⑪	○	⑭-10	下位層が連続していると判断され、断層でない可能性が大きい。				○								
A-⑫	○						○								
A-⑬	○			○	⑭-11	層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。上位層はアバットしている可能性がある。	○								
A-⑭	○			○	⑭-12	記録が明瞭でなく判読が困難である。	○	⑰-1	上・下位層とも切断されていると判断される。						
A-⑮	○			○	⑭-13	上・下位層とも切断されていると判断される。	○								
A-⑯	○			○	⑭-14	下位層は切断されていると判断され、断層の可能性はある。上位層はアバットしている可能性がある。	○								
A-⑰	○			○	⑭-15 ⑭-16	下位層は切断されていると判断され、断層の可能性はある。上位層はアバットしている可能性がある。	○	F <sub>4</sub> -2	III下部、III'	III上部	II	×	I層欠如、II層は斜面にアバット	II層の状況から最近の活動性はないと判断される。	
A-⑱	○	⑭-18	記録が明瞭でないが、上位層が切断されている可能性がある。		⑭-17	記録が明瞭でないが、上位層が切断されている可能性がある。	○								
A-⑲	○	⑭-19	記録が明瞭でなく判読が困難である。				○								
A-⑳	○	⑭-20	層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。上位層はアバットしている可能性がある。				○								
A-㉑	○						○								
A-㉒	○			○	⑭-22	層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。上位層はアバットしている可能性がある。	○	⑰-2	下位層は切断されていると判断され、断層の可能性はある。上位層はアバットしている可能性がある。						
A-㉓	○			○	⑭-23	層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。上位層はアバットしている可能性がある。									
A-㉔	○			○	⑭-24	上位層がアバットしていると判断される。									
A-㉕	○			○	⑭-26	上位層がアバットしていると判断される。									

(注) ※1は文献断層が申請者の実施した音波探査の測線とクロスする測線を示す。  
 ※2は申請者が断層と認定した測線を示す。  
 ※3は文献の原記録の番号(申請者が付けたもの)を示す。

第2、3表(2) 敷地周辺海域の断層の状況

神威岬西側海域の断層

申請者の 音波探査 測線名	文献断層の記録判読結果						申請者の断層 認定箇所	申請者が実施した音波探査記録の判読結果						
	活断層研究会		海上保安庁		地質調査所			断層名	断層が認められる層	変形が認められる層	影響を受けていない層	最近の活動性 有無	断層付近の特徴	評価
	※1 有無	※3 記録番号	記録判読結果	※1 有無	※3 記録番号	記録判読結果								
B-③							○	F <sub>a</sub> -1	Ⅲ、Ⅳ	Ⅱ	-	○	Ⅱ層は薄く、変形は堆積環境による可能性あり。	Ⅱ層上部の変形は、堆積環境による可能性もあるが、B-5測線ではⅢ層およびⅡ層下部と同じ傾向の変形がⅡ層上部に及んでいることから、最近の活動性があると判断される。
B-④	○			○			○		Ⅲ、Ⅳ	Ⅱ	-	○	〃	
B-⑤	○			○	㉔-2	記録が明瞭でなく判読が困難である。	○		Ⅲ下部、Ⅳ	Ⅱ、Ⅲ上部	-	○	〃	
B-⑥	○			○	㉔-3	記録が明瞭でなく判読が困難である。	○		Ⅱ下部、Ⅲ、Ⅳ	Ⅱ上部	-	○	Ⅱ層上部の乱れは堆積環境による可能性あり。	
B-⑦	○			○			○	断層と認めず					Ⅳ層が連続しており、断層ではないと判断される。	
B-⑧	○			○	㉔-4	記録が明瞭でなく判読が困難である。	○	F <sub>a</sub> -2	Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	-	Ⅱ上部	×	Ⅱ層上部の乱れは堆積環境によると考えられる	Ⅱ層上部には堆積環境によると考えられる乱れが認められるが最近の活動性はないと判断される。
B-⑨	○			○			○		Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ下部	Ⅱ上部	×	〃	
B-⑩	○			○	㉔-5	記録が明瞭でなく判読が困難である。	○		Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ上部(小)	-	○	Ⅱ層は断層方向に層厚を増す。Ⅱ層上部の乱れは堆積環境による可能性あり。	
B-⑪	○			○			○		Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ上部(小)	-	○	〃	
B-⑫	○			○	㉔-6	記録が明瞭でなく判読が困難である。	○		Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ上部(小)	-	○	〃	
B-⑬	○			○	㉔-7	記録が明瞭でなく判読が困難である。	○		Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	-	Ⅱ上部	×	Ⅱ層上部の乱れは堆積環境によると考えられる。	
B-⑭	○			○			○		Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	-	Ⅱ上部	×	Ⅱ層上部にほとんど乱れなし。	
B-⑮	○			○			○		Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ上部(小)	-	○	Ⅱ層は断層方向に層厚を増す。Ⅱ層最上部はほとんど乱れなし。	
B-⑯	○			○	㉔-8	記録が明瞭でなく判読が困難である。	○		Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ上部(小)	-	○	〃	
B-⑰	○			○			○		Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	-	Ⅱ上部	×	Ⅱ層下部は層厚変化があるが上部はほとんど乱れなし。	
B-⑱	○			○			○		Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	-	Ⅱ上部	×	〃	
B-⑲	○			○			○		Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	-	Ⅱ上部	×	〃	
B-⑳	○			○			○	Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	-	Ⅱ上部	×	〃		
B-㉑	○			○			○	Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	-	Ⅱ上部	×	〃		
B-㉒	○			○	㉔-1	下位層の層理面は明瞭でないが、断層の可能性はある。上位層はアバットしている可能性がある。	○	F <sub>a</sub> -2	Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ上部	-	○	断層付近に顕著な乱れ(褶曲)が認められる。	断層付近のⅡ層に顕著な乱れ(褶曲または断層)が認められ、これがⅡ層上部に及んでいるので、最近の活動性があると判断される。
B-㉓	○			○			○	Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ上部	-	○	〃		
B-㉔	○			○			○	Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ上部	-	○	Ⅱ層は断層方向に層厚を増す。		
B-㉕	○			○			○	Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ上部	-	○	断層付近に顕著な乱れ(褶曲)が認められる。		
B-㉖	○			○			○	Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ上部	-	○	〃	Ⅱ層上部はほとんど乱れがないことから、最近の活動性はないと判断される。	
B-㉗	○	㉔-4	層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。	○			○	Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ上部	-	○	Ⅱ層は断層方向に層厚を増す。顕著な乱れ(褶曲)が認められる。		
B-㉘	○	㉔-5	層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。	○	㉔-2	下位層の層理面は明瞭でないが、断層の可能性はある。上位層はアバットしている可能性がある。	○	Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ上部	-	○	〃		
B-㉙	○	㉔-6	層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。	○			○	Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ上部	-	○	Ⅱ層上部はほとんど乱れなし。		
B-㉚	○	㉔-7	層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。	○			○	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	-	-	○	Ⅱ層上部まで断層が及んでいる。		
B-㉛	○			○			○	Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ上部(小)	-	○	Ⅱ層上部にわずかな乱れが認められる。		
B-㉜	○			○	㉔-9	層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。	○	Ⅱ下部・Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ上部(小)	-	○	Ⅱ層は断層方向に層厚を増す。断層付近のⅡ層上部に乱れが認められる。		
B-㉝	○			○			○	Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ下部	Ⅱ上部	×	Ⅱ層上部はほとんど乱れなし。		
B-㉞	○			○			○	Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ下部	Ⅱ上部	×	〃		

(注) ※1は文献断層が申請者の実施した音波探査の測線とクロスする測線を示す。

※2は申請者が断層と認定した測線を示す。

※3は文献の原記録の番号(申請者が付けたもの)を示す。

(注) Ⅱ層の上位にⅠ層が分布すると考えられるが区別できないためⅡ層に含めている。

第2、3表(3) 敷地周辺海域の断層の状況

弁慶岬西側海域の断層

申請者の音波探査測線名	文献断層の記録判読結果								申請者の断層認定箇所 ※2有無	断層名	申請者が実施した音波探査記録の判読結果					評価
	活断層研究会			海上保安庁		地質調査所					断層が認められる層	変形が認められる層	影響を受けていない層	最近の活動性 有無	断層付近の特徴	
	※1有無	※3記録番号	記録判読結果	有無	記録番号	有無	記録番号	有無								
B-⑥	○														地形変換点付近に位置し、縦横比の大きい記録では断層のように見えるが、斜面の傾斜角は10°~15°で、基盤にII層がアバットしているとみられ、断層ではないと判断される。	
B-⑬	○	④-1	層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。上位層はアバットしている可能性がある。													
B-⑯	○	④-2	記録が明瞭でなく判読が困難である。													
B-⑰	○	④-3	記録が明瞭でなく判読が困難である。													
B-⑱	○	④-4	層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。上位層はアバットしている可能性がある。													
B-⑲	○	④-5	層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。上位層はアバットしている可能性がある。													
B-⑳	○	④-6	下位層の層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。上位層はアバットしている可能性がある。													
B-㉑	○															
B-㉒	○	④-7 ④-8	下位層の層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。上位層はアバットしている可能性がある。													
B-㉓	○	④-9	記録が明瞭でなく判読が困難である。													
B-㉔	○															
B-㉕	○	④-10	下位層の層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。上位層はアバットしている可能性がある。													
B-㉖	○	④-11	層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。上位層はアバットしている可能性がある。													

(注) ※1は文献断層が申請者の実施した音波探査の測線とクロスする測線を示す。

※2は申請者が断層と認定した測線を示す。

※3は文献の原記録の番号(申請者が付けたもの)を示す。

申請者の音波探査測線名	文献断層の記載箇所						申請者の断層認定箇所 ※2 有無	申請者が実施した音波探査記録の判読結果						
	活断層研究会		海上保安庁		地質調査所			断層名	断層が認められる層	変形が認められる層	影響を受けていない層	最近の活動性 有無	断層付近の特徴	評価
	有無	記録番号	有無	記録番号	※1 有無	※3 記録番号								
					○	㉔-1	下位層の層理面が明瞭でなく、断層か否かの判読が困難である。上位層はアバットしている可能性がある。							
B-①					○	㉔-2	〃				△	II層の乱れは堆積環境による可能性が大。	II層の乱れ、傾斜は堆積環境による可能性が大である。	
B-②					○					△	II層の傾斜は堆積環境による可能性が大。			
B-③					○				II下部・III・IV	II上部	○	II層は断層方向に層厚を増す。II層上部に及ぶ乱れが認められる。	II層に層厚変化や乱れが認められることから、最近の活動性があると判断される。	
B-④					○				II下部・III・IV	II上部	○	〃		
B-⑤					○				II下部・III・IV	II上部	○	II層は断層方向に層厚を増す。		
B-⑥					○				II下部・III・IV	II上部	○	〃		
B-⑦					○				II下部・III・IV	II上部	○	II層上部に及ぶ乱れが認められる。		
B-⑧					○			FB-3	II下部・III・IV	II上部	○	〃		
B-⑨					○				II下部・III・IV	II上部	○	II層は断層方向に層厚を増す。II層上部の乱れは堆積環境による可能性あり。		
B-⑩					○				II下部・III・IV	II上部	○	II層最上部は乱れなし。		
B-⑪					○	㉔-1	下位層は切断されていると判断され、断層の可能性はある。上位層はアバットしている可能性がある。		II下部・III・IV	II上部	○	II層は断層方向に層厚を増す。II層上部に及ぶ乱れが認められる。		
B-⑫					○				II下部・III・IV	II上部	○	〃		
B-⑬					○				III・IV	II	○	〃		
B-⑭					○				III・IV	II(小)	○	II層は断層方向に層厚を増す。II層上部の乱れは小さい。		
B-⑮					○				III・IV	II(小)	○	〃		
B-⑯					○				III・IV(不明瞭)	-	II	×	II層の層厚が薄くて不明瞭だが、断層による変形はない。	II層の状況から最近の活動性はないと判断される。
B-⑰					○				III・IV(〃)	-	II(不明瞭)	×	〃	
B-⑱					○				III・IV(〃)	-	II(〃)	×	〃	
B-⑲					○				断層と認めず					IV層中の凹地が不明瞭となり断層でないと判断される。

(注) ※1は文献断層が申請者の実施した音波探査の測線とクロスする測線を示す。

※2は申請者が断層と認定した測線を示す。

※3は文献の原記録の番号(申請者が付けたもの)を示す。

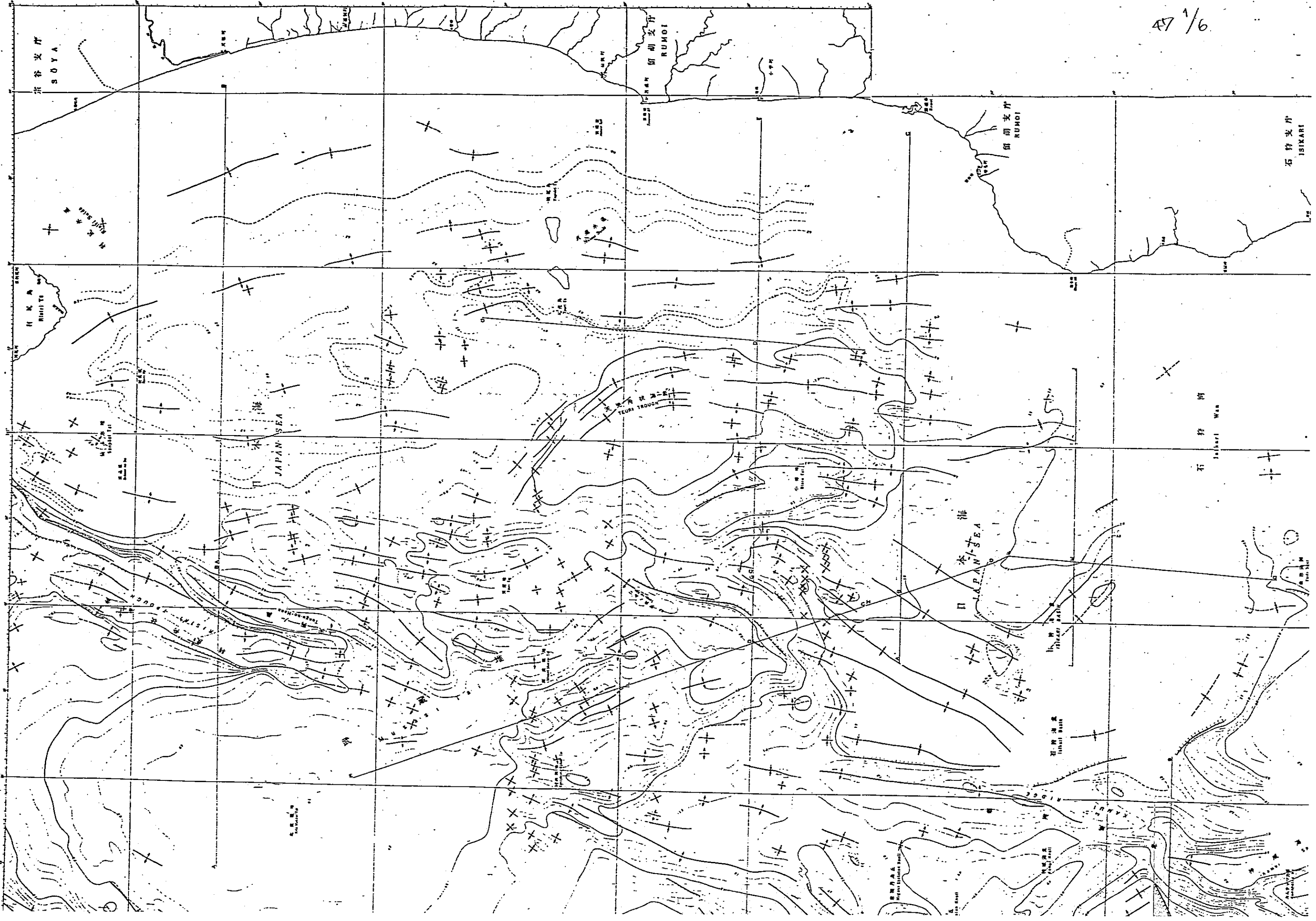
(注) II層の上位にI層が分布すると考えられるが区別できないためII層に含めている。

第 2, 4 表 調査結果による断層と文献断層の長さの対比

海 域	断 層 名		調査結果による 断 層 の 長 さ (Km)	(参考) 文献に示されている断層の長さ (Km)		
				海底地質構造図 (海上保安庁)	日本と周辺海底 の 活 断 層 図 (活断層研究会)	広域海底地質図 (地質調査所)
A	留 萌 西 側 海 域 の 断 層	F <sub>A</sub> -1	28	27、21、15	80	35、33
		F <sub>A</sub> -1	1 測線のみ			
		F <sub>A</sub> -2	28			
B	神 威 岬 西 側 海 域 の 断 層	F <sub>B</sub> -1	18	7、9、18、3	34、26、11	45
		F <sub>B</sub> -2	82			
	弁 慶 岬 西 側 海 域 の 断 層		—	—	45	—
	積 丹 岬 西 側 海 域 の 断 層	F <sub>B</sub> -3	82	—	—	27、55

第 2, 5 表 敦地周辺海域の断層の活動性検討結果

断層名	断層の長さ	最近の活動性を有する長さ	断層付近の地形	活動性の評価	
留萌西側海域の断層	F A - 1	28 (km)	13 (km)	武蔵堆と、その東側の天売舟状海盆との境界付近に位置する。	A-①~④~⑤測線では、地形変換部の低地側に堆積している第四紀層と推定されるⅡ層に変形が認められるので、この変形は断層運動を反映したものと考え、この区間は活動性があるものと判断する。
	F A - 2	28	0	神威海嶺と、その東側の石狩海盆との境界付近に位置する。	A-②測線では、第四紀層と推定される地層 (Ⅰ、Ⅱ層) は欠除するが、断層推定位置付近の海底地形面が平坦であることから、この区間は最近の活動性はないものと判断する。
	F B - 1	18	18	南後志海丘と、その東側の後志舟状海盆との境界付近に位置する。	A-①~③及びA-⑥~⑧測線では、地形変換部の低地側に堆積している第四紀層と推定されるⅡ層に明瞭な変形が認められないことから、この区間は最近の活動性はないものと判断する。
神威岬西側海域の断層	F B - 1	18	18	南後志海丘と、その東側の後志舟状海盆との境界付近に位置する。	A-⑨~⑫測線では、地形変換部の低地側に堆積している第四紀層と推定されるⅡ層の上部に明瞭な変形が認められないことから、この断層は最近の活動性はないものと判断する。
	F B - 2	82	14 50	南後志海丘および奥尻海嶺と、その東側の後志舟状海盆との境界付近に位置する。	B-③~⑤測線では地形変換部の低地側に堆積しているⅡ層の上部にその下位のⅢ層およびⅡ層の下部と同傾向の変形がみられることから、この断層は活動性があるものと判断する。 B-⑦~⑩及びB-⑬~⑭測線では、地形変換部の低地側に堆積している第四紀層と推定されるⅡ層に変形が認められるので、この変形は断層運動を反映したものと考え、この区間は活動性があるものと判断する。
積丹岬西側海域の断層	F B - 3	82	30	奥尻海嶺とその東側の海盆状の平坦部 (奥尻海嶺と南後志海丘の間) との境界付近に位置する。	B-⑤~⑧測線では、地形変換部の低地側に堆積している第四紀層と推定されるⅡ層の上部に変形が認められないことからこの区間は最近の活動性はないものと判断する。 B-③~④測線では海嶺と海丘の間に堆積している第四紀層と推定されるⅡ層に層厚の変化または地層の乱れが認められるので、この変形は断層運動を反映したものと考え、この区間は活動性があるものと判断する。



宗谷支庁  
SOYA

留萌支庁  
RUMOI

留萌支庁  
RUMOI

石狩支庁  
ISHIKARI

日本海  
JAPAN SEA

日本海  
JAPAN SEA

石狩川  
ISHIKARI WASHI

天来海峡  
TENRAI TROUGH

石狩川  
ISHIKARI WASHI

石狩川  
ISHIKARI WASHI

石狩川  
ISHIKARI WASHI

石狩川  
ISHIKARI WASHI